

登山月報



磐梯山々頂



スポーツクライミング競技.....	2
第20回 JOCジュニアオリンピックカップ大会報告	
2017年ワールドゲームズ大会報告	3
みんな集まれ！ジュニア登山教室 in 立山2017	5
平成29年度全国高等学校総合体育大会登山大会	7
平成29年度前期海外登山奨励金選考結果	8
第106回 Mountain World	9
「山の日」制定記念 一ふるさとの山を登ろう	10
第2回「山の日」記念全国大会 in 那須2017	10
平成29年度国際委員総会 兼 第56回海外登山技術研究会 開催報告 ..	11
新刊図書紹介.....	12
JMA、寄贈図書、編集後記	13

スポーツクライミング競技 第20回 JOCジュニアオリンピックカップ大会報告

20回の節目を迎えたこの大会は、第1回が埼玉県川口市のPUMP 1号店、第2回が埼玉県加須市の加須市民体育館、第3回が神奈川県秦野市の神奈川県立山岳スポーツセンターで開催された後、第4回大会から富山県南砺市(当時は城端町)の桜ヶ池クライミングセンターで開催されるようになった。第1回大会から連続20回関わってきたことになるが、この地で真夏に開催された17回の大会の中で今年が最も気温が低くて凌ぎやすい大会であった。雨の影響を心配したが、ルートセッターによる対応も功を奏して競技にはほとんど影響なく予定通り進行することができ、事故もトラブルもなく無事に終了することができた。

1日目、2日目の予選は男子全員が共通の2本のルート、女子全員が共通の2本のルートを登り、設定グレードは、男子ルート2本が共に13a、女子ルート2本が共に12c。完登者数は、男子のA壁(向かって右端の固定壁)ルートとC壁(向かって左側の擬岩可動壁)ルートが共に6名、女子のB壁(向かって右側の擬岩可動壁)ルートが27名、D壁(向かって左端の固定壁)ルートが24名であった。

両ルート完登者は男子5名、女子23名であったが、男子はジュニア1名、ユースA3名、ユースB1名、ユースCが0名であったのに対し、女子はジュニア4名、ユースA2名、ユースB11名、ユースC6名で、特に女子ユースBの強さが際立った。総合優勝者も男子がジュニアであったのに対し、女子はユースBの選手であり、大人を含めた大会での成績を見ても、女子のリード競技では、この年代が一つのピークになっているのが現状である。

3日目の決勝は、最初に右端の固定壁(A壁)に設定されたルートで男子ユースCの決勝が行われ、三根生仁慈選手(奈良)が、予選3位からの逆転優勝。続い



桜ヶ池クライミングセンター

て、左側のC壁からD壁に渡る女子共通の決勝ルートで行われた女子ユースC決勝では、決勝進出9名中4名の選手がC壁からD壁に渡り、小池はな選手(埼玉)が小柄ながら切れのある登りで2位以下に差をつけて優勝。ここから男女交互に少し時間をずらした競技進行となり、B壁からA壁に渡る男子共通ルートを使った男子ユースB決勝では決勝進出10名中3名の選手がA壁に渡り、予選をただ一人両完登していた西田秀聖選手(奈良)が2位以下に差をつけて優勝。予選両完登者11名が決勝に進出した激戦の女子ユースB決勝は、9名の選手がC壁からD壁に渡り、昨年の総合優勝者森秋彩選手(茨城)が、今年からのルールで決勝6分と短くなった競技時間を超えてタイムアップとなり完登こそできなかったものの、2位以下に大差をつけて総合2連覇を達成し、その実力をいかんなく発揮した。

男子ユースA決勝では決勝進出11名中7名の選手がB壁からA壁に渡り、今泉結太選手(茨城)が気迫のこもった登りで優勝。女子ユースA決勝は、決勝進出8名中2名がC壁からD壁に渡り、西田朱李選手(千葉)が2位以下に差をつけて予選4位からの逆転



本間大晴選手



森秋彩選手



男女総合優勝

優勝。女子の最後に登場したジュニア決勝では、決勝進出6名中3名がC壁からD壁に渡り、高田こころ選手(鳥取)が2位以下に大差をつけて優勝。男子ジュニア決勝では、決勝進出11名中7名がB壁からA壁に渡り、本間大晴選手(埼玉)がリーチを生かした迫力のある登りで初の総合優勝を達成した。決勝ルートの設定グレードは男子ユースCが13 a / b、女子共通ルートも13 a / b、ユースC以外の男子共通ルートが13 b / cであったが、ルートセット作業を行った日の



各カテゴリー表彰選手

暑い気象条件と大会当日の気温の下がった条件下では登り易さに差があったとのセッターの話であった。

今年の大会は、国際大会の日程の関係もあり代表選手選考大会ではなかったが、スポーツクライミングがオリンピック競技として注目される中、ユース世代の全国大会として伝統のあるこの大会が、今後どのように発展していくのか見守っていききたい。

(審判長 目次俊雄)

2017年ワールドゲームズ大会報告

ワールドゲームズとは「第2のオリンピック」とも言われる国際総合競技大会で、オリンピックに採用されていない種目だけが競技種目に選ばれている。主催は国際ワールドゲームズ協会(IWGA: International World Games Association)、後援が国際オリンピック委員会(IOC)で4年に一度、夏季オリンピック・パラリンピック競技大会の翌年に開催される。

今大会は27競技が実施されその中に「スポーツクライミング競技」の3種目(リード・ボルダリング・スピード)が実施された。



オープニングセレモニー

この大会に出場するには昨年の大会結果が優秀な選手のみが出場でき、日本からは男女総勢8名の選手が参加した。

結果は以下の通りで、男子ボルダリングで緒方、男子リードで是永が見事に金メダル、女子ボルダリングで野中、男子リードで波田が銀メダルを獲得し、合計4つのメダルを持ち帰ることができた。彼らの活躍に誇らしく思いますし、日頃の努力支えてくださっている多くの方々のご努力の賜物だと心から敬意を表するとともに、深く感謝申し上げます。

今シーズンのワールドカップでも日本選手たちが世



日本代表メンバー

界の舞台で大活躍しています。ただ、日本の活躍に対して他国の選手たちも目の色を変えてトレーニングに励んでいるのが現状です。今後ますます国際競争力を上げていくために、日本各地のクライマーがさらに切磋琢磨していく必要があると強く感じています。

◆大会概要

大会名：第10回ワールドゲームズ大会

開催日：2017年7月20日～30日

ボルダリング(予選、決勝)：7月21日

スピード(予選、決勝)：7月22日

リード(予選、決勝)：7月23日

開催地：ポーランド・ヴロツワフ

スポーツクライミング会場：

リード：New Market Square

ボルダリング：Hasta La Vista Centrum
Squasha

◆ボルダリング結果：

〈男子〉

1位：緒方 良行(福岡県連盟、1998 / 2 / 4、19歳)

2位：Jan Hojer(ドイツ)

3位：Alekssei Rubtsov(ロシア)

5位：檜崎 智亜(栃木県連盟、1996 / 6 / 22、21歳)

7位：藤井 快(東京都連盟、1992 / 11 / 30、24歳)

〈女子〉

1位：Stasa Gejo(セルビア)



緒方良行選手

2位：野中生萌(東京都連盟、1997 / 5 / 21、20歳)

3位：Fanny Gibert(フランス)

4位：野口 啓代(茨城県連盟、1989 / 5 / 30、28歳)

8位：尾上 彩(福井県連盟、1995 / 9 / 20、21歳)

◆リード結果：

〈男子〉

1位：是永 敬一郎(埼玉県連盟、1996 / 2 / 16、21歳)

2位：波田 悠貴(埼玉県連盟、1997 / 5 / 10、21歳)

3位：Sean McColl(カナダ)

〈女子〉

1位：Anak Verhoeven(ベルギー)

2位：Janja Garnbret(スロベニア)

3位：Julia Chanourdie(フランス)

6位：野口 啓代(茨城県連盟、1989 / 5 / 30、28歳)



ボルダリング表彰台



野中生萌選手



リード表彰台



是永敬一郎選手

みんな集まれ! ジュニア登山教室 in 立山2017

今年で8回目を迎えた「てっぺんめざしてワイワイ登ろう! みんな集まれ! ジュニア登山教室 in 立山2017」が、国立立山青少年自然の家を宿泊地として8月17日(木)～20日(日)の3泊4日の日程で開催された。この活動は、本協会ジュニア育成事業の一環として、国立登山研修所と共催し、日本山岳遺産基金の協賛で行われている。また、富山県教育委員会、立山町、国立立山青少年自然の家、富山県立山カルデラ砂防博物館の後援をいただき、富山県山岳連盟のご協力により実施された。

17日7時30分、参加者13名・役員5名を乗せたバスが新宿駅西口を出発し富山を目指した。道中の高速道路においては順調に進むことができ、国立立山青少年自然の家で富山県からの参加者2名が合流し、小学4年生から中学3年生までの男子14名、女子1名、合計15名の子ども達が集まった。

開校式では、本木顧問から安全登山心得の話、国立登山研修所の宮崎所長から富山の自然を満喫してほしいとの話があった。その後、部屋に荷物を入れる間もなく、隣接する「来拝山」へ登った。この山は、標高899メートルで、ここで立山を拝む「立山信仰ゆかり」の山でもある。かつて、立山が女人禁制だった時代には、女性たちがこの山に登って立山を拜んだといわれている。それほど、ここから眺める立山の姿は美しいのだが、この日は曇っており残念ながら眺望することはできなかった。それでも子供たちは、疲れを見せることなく元気に登山することができた。

夜のフリーセッションでは3つの生活班を決めた。生活班は学年の枠を超えた5名の子ども達で構成され、食事、つどい、見学体験などで行動を共にする。

18日は午前中にカルデラ砂防博物館を見学した。博物館の飯田先生による「立山の4つの特徴：上昇する



来拝山

山・火の山・氷の山・水の山」の説明を聞くことができた。日本初の氷河が立山で確認された話や、立山に見られる動植物の説明も大変勉強になった。

その後、徒歩で国立登山研修所に移動し、おいしいカレーライスの昼食を食べた。

午後からは国立登山研修所の人工壁でクライミング体験。地元のクライミングジムの方にビレー役をお願いし、みんな汗びしょりになるまでがんばった。中には一番難しいルートに到達した人もいて、会場は大きな拍手に包まれた。夕方は「おうちへの手紙」を書いた。カルデラ砂防博物館の絵葉書に立山での楽



博物館



クライミング体験



浄土山登山

しさをしたため、家族に想いを伝えた。

19日は待望の立山登山の日。室堂に到着する前にバスの車窓から「称名の滝」を見ることができた。この滝は弥陀ヶ原台地の縁から称名川へ、4段350mの日本一の落差を誇る。この日は悪天候が続いていたため増水期のみ出現する「ハンノキ滝(落差約500m)」も右手に見ることができた。

天気は高曇りで登山をするには何とかもちそうであった。登山のコースは3つに絞り、Aコース1班(4名)雄山(3003m)とBコース2班(4名)は浄土山(2831m)に登り、C'コース3班(5名)奥大日岳(2611m)と目標の山に臨んだ。登山路は、例年より残雪が多かったため高山植物の花が沢山咲いており、少し疲れを忘れさせてくれた。奥大日岳を向かった班は、2511m地点の先で親子連れのライチョウ5羽を見つけ子ども達はもちろん引率の私たちも大喜び。標高2380mの室堂乗越より先はガスに包まれたが、時より左側を見るとガスの間から立山三山が見えた。Cコース3班が登った奥大日岳コースの5名は、往復6時間ものタフなルートを見事に登り切りった。また、A・B両コース共に全員登頂することができ皆頑張って歩くことができた。本当にお疲れさまでした。

宿泊最終日のこの日の夜は、本木顧問の始めの言葉の後、仙石常務理事による各班が中心となったゲームは、どれも楽しく盛り上がり、全員が一丸となって参加できたレクリエーションだった。目隠しをして動物の絵を描いたり、指定した漢字を使って2字熟語をたくさん発表するゲームなどで楽しむ子ども達の笑顔が生き生きと感じられた。

最終日の20日は、記念撮影の後に閉校式。4日間のふりかえりでは、イラストを交えながら頑張ったことや楽しかったことを書いた。その後、本木顧問から一人ずつ修了証と今年からデザインが新しくなった記念バッチが手渡された。閉校式の後は、「まんだら遊苑」を見学した。「称名の滝」の見学予定であったが19日に



奥大日岳登山

バスからよく見ることができたので変更した。

富山県「立山博物館」の施設「まんだら遊苑」は、立山連峰の玄関口にある芦峯寺(あしくらじ)にある。ここは、立山信仰を現した立山曼荼羅の世界を五感で体験出来る場所だ。施設内は、地界・陽の道・天界・闇の道の4つのエリアに分かれ、効果音・照明・香りなど様々な仕掛けが施され、非日常の世界へ連れて行ってくれる。

ジュニア登山教室 in 立山は、3泊4日の日程中に盛りだくさんのプログラムが組まれています。参加した15名の子ども達から、「立山の大自然の素晴らしさに感動しました」、「友だち同士で支えたり支え合ったりの4日間だった」、「改めて友だちの大切さを強く感じました」、「高山植物・チングルマ」などの感想が寄せられた。この教室のねらいである「自然のすばらしさ、登山・スポーツクライミングの楽しさを学ぶ」、「共同生活により団体生活のルールを理解する」、「自立心を養い自分で考え行動できる」という目標が達成されたようだ。最後になりましたが、この活動のために準備段階からご尽力いただきました関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます。(記 中瀬和徳)



雷鳥

NZ随一の好展望を誇るスカイライン・トレッキング

ルートバーン・トラックと マウントクック 9日間

発着地 東京 旅行代金 ¥638,000~¥648,000

出発日 11/18(土)・12/2(土)・1/10(水)・2/3(土)・3/3(土)

※燃油サーチャージは旅行代金に含まれております。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ボコP保証会員

 **ALPINE ツアーズ サービス 株式会社**

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911

大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

平成29年度全国高等学校総合体育大会登山大会

山岳競技は山形県で開催され、45都道府県の選手、男女736名、監督92名、役員・スタッフ約200名、総勢約1,000名規模の大会です。

7月29日の委員長会議より出席した。都道府県の登山専門部の委員長の総会です。

7月30日、蔵王体育館で開会式が開会宣言、優勝杯返還、主催者の挨拶、山形市長の歓迎の言葉があり、選手宣誓と盛大に行われた。

その後、同体育館で、机上審査(自然観察、救急知識、気象、天気図作成)があり、初日の幕営地の月山の弓張平までバスで移動する。

7月28日までの雨で幕営地が心配だったが、西川町の月山弓張平は雨はなく、原っぱで快適に幕営できた。

役員、スタッフも志津温泉へ移動して宿を分散して宿泊。温泉にも入れたが、朝は3時頃から幕営地の状況を見て問題がないかを確認する。高校生たちの安全に気を使う。

ここで、審査の概要を説明すると、3泊4日の山行を前提として、幕営地はキャンプ場などで、テントがピンと張られているか、食事はうまく作れるか、3時に起床して5時出発、1パーティーは男女別で4人で構成され、4人が離れなくそろって歩いているか、基準タイム内に歩けるか、転んで手を付いたら減点(0.1点単位)と、山の中で赤い帽子をかぶった人が見ている。この総合得点で順位を決めるのだ。

歩くときもメインザックで、早歩きで歩いていく。走ってはいけない。幕営地から山頂をアタックすることを想定したサブザック行動もある。

また、講和として、地元の人のお話を聞いたり、他県のパーティーとの交流会もある。

歴史を感じる細かいところまで考えつくされた審査項目になっている。それでも、最後は男子のトップの得点が99.6の同点であった。減点がわずか[0.4点]しかない。これにはびっくりした。



男子スタート

7月31日 月山

女子はリフト終点より出発。ガスが濃く、山頂では、ツェルトをかぶり休憩していた。

安全を確保するために自衛隊、医者、看護師も隊の後ろから付いていく。

後半より天気も持ち直して、無事に予定コースを終了し、蔵王総合グラウンドに移動して幕営した。役員スタッフも蔵王に移動。

8月1日 龍山

龍山の下りがどろどろで滑る箇所があり、数分間隔で出発して、パーティーの競争が、団子状態になり差がなくなる。道が狭く抜くこともできない。しかし強いパーティーは団子状態が解消すると、どんどん抜いて時間内に入る。暑さとの戦いだ。中には熱中症で倒れて自衛隊に背負われて離脱するパーティーも出た。

8月2日 熊野岳

この日は熊野岳を目指した。ワサ小屋までが競技だ。その後、監督と一緒に熊野岳、お釜を経由して刈田岳駐車場までハイキングして、解散式となった。

8月3日 閉会式

大会成績は以下の通り。

男子優勝：長崎、2位：千葉、3位：山形

女子優勝：岩手、2位：長崎、3位：山形

(記：指導委員長：蛭田伸一)



女子スタート



解団式

平成29年度前期海外登山奨励金 選考結果

日本山岳・スポーツライミング協会では、海外登山の振興と技術の普及、向上を目的として、海外登山奨励金制度を制定し、斬新、独創的で、多大な成果の期待できる登山計画に対し、奨励金を交付しています。

今期(平成29年9月～平成30年2月出発予定の隊)は4隊の応募があり、厳正な審査の結果、4隊ともに奨励金を交付することを決定いたしました。

■「2017 ダラムスラ峰西壁登山隊」

期 間：2017年9月15日～10月15日

隊 員：上田幸雄、黒田誠、馬目弘仁

山 域：インドヒマラヤ ヒマチャル・プラデシュ

ダラムスラ峰(別名ホワイトセール) 6,446m

内 容：ダラムスラ峰の未踏の西壁のアルパインスタイルでの初登攀を目指す。

評 価：ピーク自体は既登であるが、情報も写真も少ない1,000mに及ぶ未踏の西壁を、アルパインスタイルで初登攀を狙う。その冒険性と登攀スタイルを評価する。

交付額：20万円



中央の影部分が西壁

■「テンギラギタウ西壁登山隊」

期 間：2017年9月18日～10月31日予定

隊 員：高柳傑、松本栄二郎、淀川裕司

山 域：ネパール ロールワリン山群

テンギラギタウ峰 6,943m

内 容：未踏の西壁をアルパインスタイルで登る。

評 価：未踏の壁をアルパインスタイルで挑戦することに対して。情報も少なく難しい壁であると思われるが、若さに期待したい。

交付額：20万円



紫ライン…目標としているライン
赤ライン…2014年アメリカ隊敗退ライン

■「Giri-Giri Boys Patagonia Expedition 2018」

期 間：2018年1月4日～2月28日

隊 員：横山勝丘、増本亮

山 域：南米パタゴニア地方 フィッツロイ山群

内 容：フィッツロイ山群主稜線の南から北への初縦走(フィッツトラバース)を目指す。またポロニトラバース(未踏)ならびに周辺山域での新ルート開拓や既成ルートのフリー化を行う。

評 価：好天をつかめず実現できていない3年越しの課題。しかしこの目標のために特異なスピード登攀のトレーニングを積み、着実に力をつけており、今度こそその成功を期待する。

交付額：20万円



フィッツトラバース

■「嘉子峰北西壁登山隊」

期 間：2017年10月初旬～11月初旬

隊 員：鈴木常晃

山 域：中国 四川省 貢嘎山域 嘉子峰(Jiazi峰)

6,540m

内 容：嘉子峰の北西壁を新ルートから、アルパインスタイルでのソロ登攀を目指す。

評 価：高所登山も体験し、ソロ登攀も練習してからの海外への挑戦となる。登攀スタイルと若さに期待して。

交付額：20万円



嘉子峰北西壁

第106回 Mountain World

ガッシャブルム I 峰南西壁ダイレクト

池田常道

ガッシャブルム I 峰(ヒドウン・ピーク、8080 m)は1958年にニコラス・クリンチの米国隊によって初登頂された。その後、75年のメスナー＝ハーベラー(北西壁)を初めとして北面と西面には複数のルートが拓かれたが、南ガッシャブルム氷河の正面に位置する南西壁には83年まで手を付ける者がいなかった。

この年はバルトロ氷河一帯がことのほか賑わった。シュテファン・ヴェルナーのスイス隊がガッシャブルム I・II 峰とブロード・ピークを連続して登り、エアハルト・ロレタンとマルセル・リュエディ、ジャン＝クロード・ゾンネンヴィルが史上初の8000 m 峰ハットトリック(3座登頂)を達成した。イタリアのレナート・カーザロットはブロード・ピーク北峰に単独で初登頂。ダグ・スコットの国際隊はK 2の南南東リブを南東稜肩の直下まで登った。ガッシャブルム I 峰では、ハビエル・エスカルティンのスペイン隊がヒドウン・ピーク南峰(7069 m)西稜から南東稜に抜けて頂上に立った。

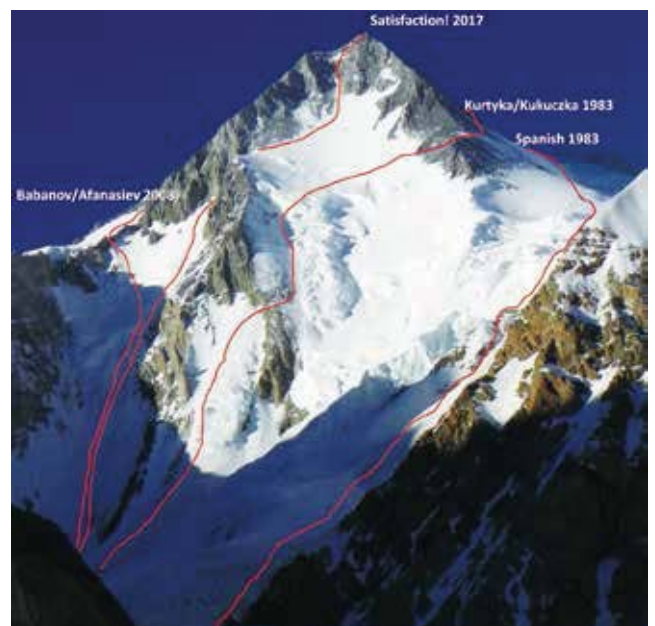
ポーランドのヴォイチェフ・クルティカは、80年にダウラギリ東壁を一緒に登った英国のアレックス・マッキンタイアとバルトロ入りを計画していたが、前年秋にマッキンタイアがアンナプルナ南壁で遭難死したため、その遺志を継いでイェジ・ククチカと組み、「アレックス・マッキンタイア追悼隊」として入山した。目標はガッシャブルム I・II 峰を新ルートからアルパインスタイルで登ることで、まずガッシャブルム II 峰の南東稜を縦走して通常ルートを下降。休養後 I 峰南西壁に取付いた。セラック帯の左から下部冰雪壁を登ってヘッドウォール基部(7400 m)に達したが、南東稜への出口が見つからず、右斜上トラバースでして南東稜から頂上に立った。ロシアのワレリー・ババノフとヴィクトル・アフアナシエフは2008年、もっと左手のラインを登ったが、落石で後者が負傷したため、西稜の7200 mに抜けて登頂した。

チェコのマレク・ホレチェックとズデニェク・フルビーは、これらの攻撃がヘッドウォール最上部の岩場を避けていることに注目し、09年に直登を試みた。ババノフのルートから入って南西壁左端のバットレスを横切

るラインを見つけたものの7500 mから敗退、標高差2000 mの大下降をやり遂げて帰還した。二人は4年後の13年、ネパールのタルン・ピーク北西ピラーを初登攀した余勢を駆って再挑戦したが、6800 m地点から引き返す途中にフルビーが1000 m滑落。ロープもピトンも失ったホレチェックは、かろうじて生還を果たした。

執念を燃やすホレチェックは翌年、トマシュ・ペトレチェックを相棒として3回目の挑戦に踏み切った。しかし、7300 mを超えたところでまたも断念する羽目になった。翌16年には、ガッシャブルム IV 峰西壁を狙っていてパートナーの不調で中止したオンドレイ・マンドゥラを誘った。二人は2日間で6800 mに達したものの、そこで停滞を強いられ、衛星電話のバッテリーが切れて一時音信不通になるなどしたが、結局7700 mの最高到達高度を記録して終わった。

ホレチェックにとって5回目となる今年、相棒は、高所が初めてのズデニェク・ハーク。7月25日にBCを出て、3回目のビバークを7380 mで過ごす。ヘッドウォールのミックス壁はさすがに厳しく、4日目7750 m、5日目7830 m、6日目7980 mと小刻みにビバークを余儀なくされた。頂上に立ったのは8日目のことだった。下降路は北面に採り、2日間で氷河まで下りた。ルート名Satisfaction (ED+, M7, WI5+)は、執念が実を結んだホレチェックの心境を表しているかのようだ。



ガッシャブルム I 峰南西壁。ルートは右から1983年スペイン隊の南東稜バリエーション、1983年クルティカ＝ククチカ、2017年チェコ・ペアのサティスファクション、2008年ババノフ＝アフアナシエフを示す

「山の日」制定記念

—ふるさとの山を登ろう—

福島県・磐梯山(1816.2m)

福島県山岳連盟は、2017年「山の日」制定記念事業として磐梯山清掃登山とジュニアスポーツクライミングこむこむ杯大会を行った。

「宝の山」磐梯山(1816.2m)の清掃登山は、祝日「山の日」の前、8月6日(日)に行われた。

昨年から始まった祝日「山の日」の意義である「山に親しむ機会を得て、山の恵みに感謝する。」を踏まえて地元の名峰で、自然を満喫しながら環境への関心を高めようと実施した。岳連関係者・一般登山者など約40人が参加。

当日は、磐梯町の八方台登山口に集合し、周辺を清掃した後、4班に分かれて山頂までの登山道沿いにごみを拾い集めた。

参加者らにはイベントを記念して作成した、磐梯山



磐梯山々頂

をあしらったバンダナがプレゼントされた。

8月11日は、福島市の「こむこむ」で「山の日」制定記念第2回ジュニアスポーツクライミングこむこむ杯大会を開催。役員・選手ら21名が参加。

参加した子供たちは、難易度別の複数コースをそれぞれ登り、一生懸命クライミングに取り組んだ。

第2回「山の日」記念全国大会 in 那須2017

8月11日に第2回「山の日」記念全国大会 in 那須2017(同大会実行委員会主催)の記念式典とシンポジウムが、中川雅治環境大臣、沖修司林野庁長官をはじめ福田富一栃木県知事、高久勝那須町々長など県内外の行政・山岳関係者らが出席し、栃木県那須町で開催された。

前日には那須町のホテルでレセプションが盛大に行われ、地元の食品が振舞われた。オープニングでは宇都宮の鳶木遺保存会の皆さんが木遣り歌を披露。地元の福田知事や高久町長の歓迎の挨拶の後、鳥取県の平井伸治知事が次年度開催の挨拶を行い、歓談に入った。歓談中には那須町時庭神楽保存会の皆さんが神楽の舞を披露されて会場は盛り上がった。

翌11日は、那須町文化センターで記念式典とシン

ポジウムが行われ、全国から約900人が来場した。開会前には栃木県警察音楽隊が来場者が和むようなウエルカム演奏でもてなしてくれた。

赤松俊彦栃木県副知事の「山鐘」で式典が開始。続いて郷土芸能の白面金毛九尾狐太鼓の逞しい鼓舞を披露。

衛藤征士郎超党派「山の日」議員連盟会長が開会を宣言した後、実行委員会会長の福田知事は、3月に那須町で起きた雪崩遭難事故で亡くなった高校生ら8名の冥福を祈り、「この大会が未来に向けて人と自然の繋がり、山と共に生きることを深く考えるきっかけになることを願う。」と挨拶した。続いて地元の高久町長が歓迎の挨拶をし、続いて来賓を代表して中川環境大臣が挨拶した。



シンポジウム



リレーセレモニー

メインアトラクションでは、女優の小林綾子さんがナビゲーターとして映像や演劇を組合せて栃木県の山の魅力や自然の恵みが紹介された。

「山の日コンサート」では、歌手の加藤登紀子さんがイチゴのとちおとめの応援ソング「いちごの唄」や「百万本のバラ」、「富士山だ」などを歌われ、お登紀節が会場を魅了した。さらに塩谷町出身の作曲家で2月に亡くなった船村徹さんがプロデュースした山の日之歌「山はふるさと」を那須野が原少年少女合唱団と合唱した。

その後のシンポジウムでは、「山と共に～人と自然につながる社会へ～」をテーマに萩原浩司さんがコー

ディネーターを務め、女優の小林綾子さん、アルピニストの野口健さん、山岳ライターの小林千穂さんら山の日アンバサダーとサントリーのCSR推進部チーフスペシャリストの山田健さんが登壇し、山と自然の魅力の紹介、それを次世代へと引き継ぐ手段についての提案がなされた。

来年の第3回「山の日」記念全国大会の開催地となる鳥取県からは、平井知事、伊木隆司米子市長、竹口大紀大山町長がお見えになり、リレーセレモニーでは「山の日帽子」の引き継ぎが行われた。

そのほか会場近くの余笹川ふれあい公園では歓迎フェスティバルが行われた。(記 尾形好雄)

平成29年度国際委員総会 兼 第56回海外登山技術研究会 開催報告

7月22、23日の週末、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターの80人室において、国際委員総会と海外登山技術研究会を開催した。この研究会は海外登山の振興とアルピニズムの発展を目的に、海外登山隊の報告や、テーマに沿った講演を行っている。参加者は67人。

22日はまず委員総会から。委員総会には20の岳連代表に集まっていた。まず澤田国際委員長より委員会の昨年度の活動報告と今年度の計画を説明、その後、各岳連より近況報告をしていただいた。多くの岳連から、海外に行く人がいない、若い人がいない、スポーツライミングに手を割かれている、といった状況が報告された。近年は海外登山が特別ではなくなり、国際担当を置かない岳連も出てきている。国際担当の存在意義は国際交流程度に限られており、JMSCAも含めてその役割と名称についても考え直してもいい頃かと感じている。

15時からは海外登山技術研究会の「海外登山報告2016」が行われた。

①カン・ナチュゴ南壁登攀報告

(鳴海玄希氏 / 2016奨励金交付隊)

当初は東壁を登る予定であったが、条件が悪く敗退。南壁をどのラインから登るか悩んだのち、結局は未踏で山頂を踏めるラインを選択。用意した同時登攀のスタイルも奏功し、3日間の短期で山頂を往復できたとのこと。

②ルンポ・カンリ北壁初登攀ビデオ報告

(平出和也氏 / 2016奨励金交付隊)

この報告は、仕事の都合で講師が出席できないため、ビデオ報告の形が取られた。こちらは入山直後の好天周期を逃さないように即アタックに入り、日本を出て2週間で7,000mの山頂を踏む、超短期登山であった。平出氏がカメラマンでもあり、見ていて飽きないきれいな映像による報告だった。

③ナンガマリⅡ峰初登頂報告

(重廣恒夫氏)

この隊は上述2隊とは違い、従来の極地法による登山。しかし目的は、重廣氏が会得してきたヒマラヤ登山のやり方を、未経験の若い世代に伝えたいという思



重廣講師



北大山岳部の講師

いで実施されたもので、見事9人が初登頂した。この登山で重廣氏と組んでルートワークを行った若者たちのこれからの期待したい。

④カムチャツカ北部スレディニー山脈縦走

(北大山岳部・羽月稜氏、山崎脩介氏)

最後の報告はかねてより出演を希望していたものであった。政治的な理由でほとんど情報がなかった北部スレディニー山脈に、学生のみで5人で渡航手続きから登山手配までをこなして行き、25日間で300kmを踏破した記録。広大なカムチャツカの景色も素晴らしく、また全員が初めての海外登山で、初々しい報告も好評だった。質問も尽きることなく出ていた。

翌23日は「新しいアルパインクライミングの可能性」というテーマで以下のプログラムを行った。

①ハードトラッドクライミング考 (倉上慶大氏)

倉上氏は一昨年に、国内では珍しいハードトラッドといえる「千日の瑠璃(5.14aR/X 7ピッチ)」を開拓し、また今年5月にはイギリスで行われた国際交流クライミングイベント(BMCクライミングミート)にも参加した。それらの経験から、日本と英国のトラッドルートの登り方や考え方の違いを紹介していただき、またグレーディングの違いから、国内トラッドの再評価についても話していただいた。

②称名川本流 完全遡行報告 (大西良治氏)

立山の称名川には1.5kmに及ぶ未踏の大廊下がある。誰もがその遡行は不可能と考えていたが、大西氏は2013年に3回に分けてそこを踏破した。そして昨年、一つの沢として遡行したいという思いから、ワンプッシュでの遡行に成功。その登山の様子や、そこに至るまでの熱い想いを話していただいた。

③座談会「新しいアルパインクライミングの可能性」

(倉上、大西、進行：澤田)

「千日の瑠璃」の開拓は、これまでボルト必須と思われていた弱点の少ないフェースにトラッドルートを拓くものであった。また称名廊下の遡行は、高いクライミング能力の裏付けと不屈の精神力によって成しえた記録で、人間の可能性を広げるものと言えると思う。それらを成し遂げたお二人に、その発想の端緒や完遂できた理由、そしてこれからの課題などを伺った。

今回の海登研は、登山報告と講演会のどちらについても、タイムリーで内容の濃いプログラムを組むことができたと思う。参加者も過去と比べて多く、熱心に聞いていただけた。いい内容の事業をすればきちんと反応があるのだと改めて感じる事ができた。今回ご協力いただいた講師の皆様、そして参加者の皆様に感謝するとともに、今後も実りある事業を行っていきたいと思います。(文責 澤田 実 国際委員長)

新刊図書紹介

『登山を楽しむための健康トレーニング』

齋藤 繁 著

本協会の登山医科学委員長の齋藤繁氏が『病気に負けない健康登山』(山と溪谷社刊)に次いで本書を上梓した。

中高年登山者の中には、自分の健康管理のために山歩きをしている健康増進派が多い。一方では、中高年登山者の遭難増加も問題になっている。中高年登山者は頑張り過ぎるため、疲労による注意力不足からの道迷いや転滑落が遭難要因となっている。

本書では「健康増進のための登山(総論)」の章で、医学的な見地から山登りの体への影響を説き、次に「ぐんまの健康登山コース(各論)」の章で、真の健康増進登山は、どんなスタイルか、地元群馬の山々を例に紹介している。

健康登山コースとして、はじめに坂道歩きを習慣にするために前橋公園、高崎観音、太田金山などのコー

スを紹介。次いで群馬の山々として、上毛三山(赤城山、榛名山、妙義山)、子持山、谷川岳、白毛門山、桐生市郊外の山(吾妻山、鳴神山、袈裟丸山)の47コースを紹介している。

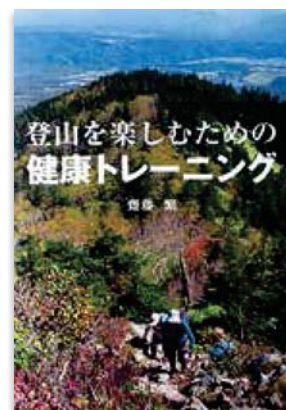
また、日頃の山登りのなかで体が発する信号を正しく理解するためのポイント、無理のない登山スタイルを作り上げるコツなどを解説しており、健康増進登山派の中高年登山者には必読書。

健康維持・増進のためにする登山の場合、継続的に健康パラメーター測定を行い、自分の値の変化を把握することが重要なので、巻末の健康チェックシート(例)を参考にするとよい。

発行 上毛新聞社 2017年7月28日

サイズ A5版211頁 定価 1,500円+税

ISBN 978-4-86352-184-1



イエジ・ククチカ映画の夕べ

2014年にポーランドで制作された故イエジ・ククチカのメモリアル映画「ユレク」の上映とヴェウ・ヴィソチャンスキ監督のトークショーを開催します。ククチカの解説は池田常道氏が行います。

日時 10月11日(水) 18時～21時
会場 国立オリンピック記念青少年総合センター
センター棟 160人室
(小田急線参宮橋駅徒歩7分)

参加費 無料

問合せ・申込先

(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会
☎03-3481-2396 info@jma-sangaku.or.jp

第4回海外登山懇談会

カナダのアイスクライミングをテーマに現地情報や、クライミングトリップについての海外登山懇談会を開催します。講師は石間真理(山岳同人チーム84)、佐藤英明(ぶなの会)の両氏。

日時 11月16日(木)19時～21時
会場 国立オリンピック記念青少年総合センター
センター棟 403号室
(小田急線参宮橋駅徒歩7分)

参加費 500円

問合せ・申込先

(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会
☎03-3481-2396 info@jma-sangaku.or.jp



平成29年度(29年8月)
常務理事会報告

日時 平成29年8月9日(休)
18時～21時30分
場所 岸記念体育会館・4階特別会議室
出席者 八木原会長、亀山、高橋、
伊藤、平山各副会長、尾形専務理事、
小野寺、水島、村岡、小日向、合田、
仙石、蛭田、町田の各常務理事、中島、
古屋監事
欠席者：0(14名中14名出席)

1. 議事

- 平成29年度7月常務理事会・議事録の承認について(事前送付済) 異議なく承認された。
- 臨時理事会次第について 議案の一部を報告に訂正のうえ、承認された。
- 平成29年度第1次補正予算案について 補正予算の主な内容に数字を記載し、原因と改善策を提示することで承認。
- 組織・管理運営規程の整備について 臨時理事会までに整備し、メールで確認を諮り、理事会に提案することで承認。次に合田常務理事より選手登録規程及び細則の整備、クライミング大会の公認制度、予算委員会、契約審査委員会、旅費、旅費規程改正の提案が資料に基づいてあった。これらは準備できるものから臨時理事会に諮ることで承認。
- 世界ユース選手権派遣について 役員9名、選手20名の派遣が異議なく承認された。
- 契約審査会報告について 8月3日開催の契約審査会の報告があり、オフィシャルサプライヤーについては公募を行うことが承認された。

- 海外登山奨励金選考結果について 本誌10頁記載の4隊に交付することが承認された。
- AACヨセミテ募集について 橋尾歌子氏(バーバリアンクラブ)の派遣が承認された。

2. 報告事項

- 7月度月次決算報告について
- 富士山要望書について
- JOC加盟団体規程について
- SC各種大会報告について 以上、(1)～(4)まで小野寺常務理事から資料に基づいて報告があった。
- 2018アジア選手権実行委員会報告について 村岡常務理事から資料に基づいて報告があった。
- JOC選手強化補助事業費の決定について 小野寺常務理事から資料に基づいて報告があった。
- ボルダリング一般予選について 12/9～10に愛知県で開催。

3. 指導員・審判員 検定結果報告

山岳指導員の認定承認について 長野県・名坂友宏の認定が承認された。

4. 後援報告、協賛等の依頼について

- 福井岳連後援依頼「里山登山における安全対策」
- 大阪府岳連後援依頼「生駒山チャレンジ登山」
- 広島岳連後援名義依頼「山岳・辺境文化セミナー」
- 山岳耐久レース長谷川恒男カップ後援名義依頼 以上、4件とも承認。

5. 専門委員会動静

- 指導常任委員会 7月(7月10日～8月8日) 8月7日(月) 出席9名 委任6名
- 報告事項

- 平成29年度日体協表彰について 前田善彦(奈良)、目次俊雄(千葉)、瀧本健(東京)の3名。
- 夏山リーダー制度について イ) 検討事項 ①スポーツ指導者専門科目修了認定申請について ②山岳指導員認定申請 名坂友宏(長野)を認定。 ③中央開催スポーツクライミング指導者養成について ④ドキュメント ・平成29年度の検定基準(AAC指導員、上級指導員)について ・平成29年度SCテキストの進行状況について ⑤その他 ・高体連の日体協登録管理システム登録について ・中高年安全登山講習会の義務研修について
- 国際委員会 7月10日(月) 出席8名、委任6名
- 報告事項 ①海外登山奨励金前期(6/30締切)申請について。 ②山岳スキー小委員会報告 6/25、第1回委員会開催(信濃大町、出席者:平田、松澤、倉橋、笹生、佐伯、澤田計6名) ③29年度新委員について 国際委員:石賀雅浩氏(栃木岳連国際委員長)の推薦 山岳スキー委員:平田伸也、松澤幸靖、倉橋俊行の推薦
- 協議事項 ①平成29年度国際委員会総会兼第56回海外登山技術研究会について 7月22～23日、国立オリンピック記念青少年総合センター ②第4回海外登山懇談会について 11/16(木)、国立オリンピック記念青少年総合センター ③国内外に向けてのHP案について ③自然保護委員会

- 7月20日(休) 出席16名
- ア) 報告
- ①自然保護指導員登録証について 新版先行配布
 - ②自然保護指導員登録証・ワッペンに発送開始160件余
 - ③自然保護指導員更新予定者手続き促進依頼
- イ) 審議
- ①自然保護委員総会石川県大会について
 - ②自然保護指導員登録証発行基準について
 - ③ワッペン関係について
 - ④トイレパンフの配布について
 - ⑤自然保護委員会プロジェクトについて
 - ⑥阿里山アジア自然保護交流会について 11月22日～27日 台湾
 - ⑦関東地区自然保護交流会について
- ・雲取山 奥多摩小屋トイレについての研修 10月21日～22日 都岳連
- (4) 遭対委員会
7月26日(休) 出席19名
- ア) 報告事項
- ①全国山岳遭難対策協議会について 7/7, 国立オリンピック記念青少年総合センター
 - ②29年度遭対委員推薦について

- 新規: 茨城・宮下。東京・榎、建部、吉田、本郷(日山協指導部)
- 退任: 稲葉、林、北島、蛭田
- ③29年度遭難対策予算執行状況について
 - ④SAR会開催について 7/15、神戸登山研修所
 - ⑤雪崩シンポジウム中止について 12/17開始予定のシンポジウムは一旦中止とする。
- イ) 協議、連絡事項
- ①レスキュー講習会(無積雪期)について 9/8～10、国立登山研修所
 - ②夏山リーダーについて
 - ③ユーブロックスジャパン(株)からの打診について
 - ④遭対員メーリングリスト

7. その他の重要事項

- 7月13日～8月5日
- (1)東京2020オリンピック競技大会国内競技団体大会準備等に関する連絡会 7月12日(休) 於: 新宿パークタワー 11F 尾形専務理事
 - (2)松本睦男前富山県山岳連盟会長叙勲祝賀会 7月15日(休) 於: 富山第一ホテル 八木原会長

- (3)日体協臨時評議員会 7月18日(休) 於: 品川プリンスホテル 尾形専務理事
- (4)ワールドゲームズ大会 7月19日(休)～24日(月) 於: ポーランド・ヴロツワフ
- (5)山岳4団体懇談会 7月20日(休) 於: 南国酒家 八木原会長、亀山副会長、尾形専務理事、小野寺常務理事
- (6)国際委員総会兼海外登山技術研究会 7月22日(土)～23日(日) 於: 国立オリンピック記念青少年総合センター 八木原会長、澤田委員長
- (7)日体協競技団体評議員連合会総会 7月25日(休) 於: 岸念体記育会館 尾形専務理事
- (8)高頭祭 7月25日(休) 於: 新潟県弥彦山上大平園地高頭仁兵衛寿像碑前 八木原会長
- (9)2018アジア選手権大会実行委員会発足式 7月26日(休) 於: 倉吉市 八木原会長、村岡・小日向常務理事
- (10)斎藤一男元会長お別れの会 7月29日(土) 於: アルカディア市ヶ谷 八木原会長
- (11)インターハイ 7月29日(土)～8月3日(休) 於: 山形県・蔵王・月山周辺 八木原会長、蛭田常務理事
- (12)スポーツ国際基盤形成事業第1回情報共有連絡会議 8月3日(休) 於: 岸記念体育会館2F 理事監事室 尾形専務理事
- (13)契約審査会 8月3日(休) 於: スポーツマンクラブ 尾形専務理事、小野寺・村岡・合田常務理事、相良理事

寄贈図書

寄贈本	(公社)日本山岳ガイド協会	「日本百低山」編: 日本山岳ガイド協会
	(一財)全国山の日協議会	「日本百低山」編: 日本山岳ガイド協会
雑誌	(株)ナカニシヤ出版	「森の巨人たち」著: 草川 啓三
	(株)山と溪谷社	「山と溪谷」No.989
会報	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」No.843
	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.472
	全日本ボウリング協会	「JBCnews」第549号
	(一財)教職員生涯福祉財団	「教職員の生涯設計」Vol.97
	新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第331号
	(株)シマノ	「Fishing Café」VOL.57
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.335
	(公財)埼玉県体育協会	「スポーツ埼玉」Vol.277
	Corean Alpine Club	「山」Vol.252
	La rivista del Club alpino italiano	「Montagne360」2017.8
	Korean Alpine Federation	「大山聯」Vol.224
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.511
	やまびこ山想会	「やまびこ」第172号
	愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第424号
	東京野歩路会	「山嶺」VOL.94
	(公社)日本山岳会	「山」No.867
日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第445号	
おいらく山岳会	「山行手帖」No.693	
中国登山協会	「山野」2017/08 総228期	

編集後記

9月3日臨時理事会が開催され本協会の名称変更、取り巻く環境変化に対応する為諸規程の整備がなされた。懸案であった登録選手規程は、ホームページから電子登録システムに従って、個人で登録する事が基本となった。各岳連・協会と登録選手の帰属は希薄になるが、アスリート・ファーストと考えれば当然で、この先は小・中学生選手との関わりが肝要か。尚、改定規程類はホームページで公開していますので確認下さい。(広報担当 水島彰治)

一般財団法人 日本トレイルランニング協会
神奈川県事務局
 〒252-0184
 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 ☎042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-mail kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

妙高赤倉マウンテンレース
 パーティカル5K & トレイルラン25K

NPO法人 **北丹沢山岳センター**
 神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 道志村トレイルレース実行委員会
- 八重山トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
- 上野原秋山トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本 憲昭

登山月報 第582号

定価 110円(送料別)
 予約年間 1,300円(送料共)
 昭和45年12月12日
 第三種郵便物認可
 (毎月1回15日発行)

発行日 平成29年9月15日
 発行者 東京都渋谷区神南1-1-1
 岸記念体育会館内
 公益社団法人
 日本山岳・スポーツクライミング協会

電話 03-3481-2396
 F A X 03-3481-2395

mont-bell
BOOKS

紅葉と温泉
秋ならではの山旅へ



秋に楽しめる山登りを紹介するガイドムック。
「紅葉と温泉」をテーマに、赤や黄色に色づく山を歩き、
麓に湧く温泉で疲れを癒す。
秋の趣きを感じる、日本全国の山旅ルートを紹介します。



〔価格〕1000円(税込) A4判・144ページ

★お求めは全国のモンベルストア、一般書店、ウェブサイトで

【お問い合わせ】モンベルポスト ☎0120-982-682 / TEL.06-6538-5797 ※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

www.gakujin.jp

期待される、
という希望。

期待されすぎている、
という不安。



未来は、
希望と不安で、
できている。

明日をつよく。三井住友海上

www.ms-ins.com

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上

あなたの 山岳保険は 大丈夫ですか？

山岳保険の加入は登山者のマナーです

日山協山岳共済会 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。
公益社団法人 日本山岳協会 携帯サイト
(www.jma-sangaku.or.jp/mobile/)



WEBからもお申込みいただけます (www.sangakukyousai.com)